

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 3月1 1日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100629
法人名	社団法人椿寿会
事業所名	シニアレジデンスつばき
所在地	345-0014 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字才羽2123番地 (電話) 0480-36-5105
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月3日

【情報提供票より】(20年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	14.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造ガルバニウム銅版造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	18,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,400円			

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳥居整形外科医院、山口歯科医院
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、同一社会福祉法人が運営している、特別養護老人ホーム・ケアハウス・老人保健施設・通所介護等から0.3kmほど離れた所に建てられている。木造平屋建てで共有スペースは広く、雨の日でも歩けるように建物の周りには屋根つきのテラスが設置されてある。夏には田んぼの稲が風に揺られて波打ち、蛙の鳴き声が聞こえるのどかな風景を眺め、ゆったりとした毎日を過ごされている。各居室には、トイレ、洗面台が設置され、安心して過ごせるよう配慮されて、自立支援に向けた取り組みがされている様子が伺える。利用者は使い慣れた馴染みのものを持ち込み、自分に合った居室空間を作り上げている。職員も一緒に作業をしたり、その人に合った声かけをし、その人らしい日常生活が送られている。医療面についても連携が良くできており、緊急時には夜間でもすぐ対応できるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の要改善事項である健康診断については、町に住所のある利用者のみではあるが町健康検査を受け、改善に向けて取り組んでいる。水分摂取量のチェックは毎回行い一日の摂取量を主治医にファックスしている。会議録やノート等の閲覧は、職員全員に見てもらおう周知している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長・管理者・フロア長で検討し作成されているが、出来上がった評価表については職員に見て頂いている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3~4ヶ月に一度開かれ、主に決算報告やホーム内の近況報告、家族会の報告等を行っている。今後は、会議回数を2ヶ月に一度開く予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来所時など、ホームに対する意見や要望を聞くように努めているが、現在のところ家族から苦情や意見などは出していない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 外部からの来訪はなく、ホーム側から地域に対して積極的な働きかけをするまでには至っていないが、地域行事に利用者の作品を出品したりすることで地域との交流を図っている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員から提案して頂き、施設長、管理者、各フロア長で協議されたものが理念として掲げられている。施設の案内にも分かりやすい言葉で記載されてある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時や利用者と一緒にいる朝礼会の時に職員で唱和し共有している。この時、「今日も無事に一日が過ごせるように」「季節感を感じて日常生活を送ってもらえるように」と職員は願っている。その日の予定は利用者と一緒に話し合い決めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぎとピア(障害者の施設)で行われる「集い」や町の文化祭に、利用者が書かれた書道の作品等を出展し、見学に出かけている。		ホームの立地条件にもよるが、地域の老人会や行事等に参加できるように、ホーム側から積極的に働き掛けることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアマネジャーと管理者で作成された自己評価を職員に確認して頂いている。なお、前回の外部評価で指摘された「健康診断の実施」については町内に住所がある利用者だけであるが、19年度実施されており、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、家族会代表・利用者代表・民生委員・役所担当者・地域包括支援センター・アルテンハイム杉戸施設長・管理者等のメンバー構成で開催され、家族会の様子や決算報告などが議題として上げられている。今まで3～4ヵ月に一度の割合であったが、今後、2ヵ月に1回開催する予定でいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告書や書類の書式、研修案内等の説明をして頂いたり、その他いろいろな情報を頂いている。町役場へはホームからも行く機会を多く作り、相談やアドバイスを受け、市町村との関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康面についてはその都度連絡をして指示を仰いでいる。各利用者毎に一冊ずつのアルバムが作られており、家族の来所時に見て頂いている。金銭管理状況は6ヵ月毎のお知らせだが、介護計画書を送付するときに近況等を書き知らせている。ホーム便りの発行は20年度から実施する予定である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する要望、希望、ケアプラン等を送付して意見を聞いている。また、来所時に話しかけたり、運営推進会議・家族会・行事参加などに機会を設けるなどしているが、今のところ意見や苦情など上がってこない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に年2回の異動をしているが、利用者には迷惑の掛からないよう1名ずつとしている。必要最小限に抑えることで、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ段階に応じて研修に出席するよう努め、職員が参加した研修については月1回の職員会議の中で報告をしている。その場に出席できなかった者については報告内容を回覧して研修内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町にグループホームの事業所があるが、今後の予定として、連絡会を実施する運びとなっている。		グループホーム同士の職員の訪問研修等を通じて交流や連携を図るとともに、サービスの質の向上につながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり本人とその家族に見学に来ていただいている。その際、時間をかけて話を聞いたり相談をすることで納得していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、身近なことから語り合ったり、声掛けをしている。時には、利用者から言葉の遣い方や昔の言葉の意味を教えていただく場面もあり、共に学び合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事あるごとに利用者に希望など聞くように努めている。また、言葉として表現できない利用者には、日々の中からその人の思いを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月開かれているユニット毎の会議の中で、全利用者の見直しが行われ、職員間での共有が出来ている。定期的な見直しや更新時には、利用者や家族等に連絡を取り希望や意向を聞いている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の見直しをしているが、緊急に見直しが必要になった場合には、関係者と話し合い介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診についてはかかりつけ医が往診し、歯科通院については全面的に職員が対応している。また、理美容についても2カ月に1度訪問しているが、リハビリや注射が必要で家族の都合が付かない時などは、ホーム側で対応するなど、状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・整形外科は週2回、精神科は月1回の提携医院で往診して頂いている。また、看護師が毎朝バイタルチェックをして異常などの早期発見に努めている。一日の水分補給量も記録され翌日には主治医のところへファックスで送信されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けた方針・医療が必要になった際、ホーム側としては対応が困難になる場合もありえるが、家族には利用開始時にその旨を説明している。できるだけ限りホームで過ごせるようにしたいと考えており、今までに2回のターミナルケアを経験している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	洗面所・トイレは居室に設置されてあるので問題ない。個人記録については、他者に見せる場合があるので、本人以外の氏名は記録せず記号を使用している。言葉遣いも利用者にあった声かけをするように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはその日の朝利用者で話し合って決めて頂いている。静かにして欲しい人、入浴をしたくない人、散歩に行きたくない人等いるので、日課はその日によってかわってくる。また、体力的な問題にも配慮して利用者に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が利用者と一緒に台所に入り作っている。利用者の体力に合わせて配膳をする人、後片付けをする人など自分にできることを進んでいる。食事時の採光もやわらかく取られゆったりとした雰囲気の中で食事ができるように配慮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には日曜日を除き一日おきの入浴になっている。職員配置ができる時間にゆったりと入浴してもらえるように支援しているが、設備としては24時間入浴可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操は毎朝実施され、号令や声かけなどでもらっている。洗濯物たたみ、掃除などできる範囲内で行っている。また、誕生会には、歌の好きな方には歌ってもらったり、レクリエーションで得意な分野を活かせるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺に商店がないため、日用品や衣類が不足してきたときなど車で買い物に出かけている。天気の良い日にはできるだけ戸外の生活を勤めているが、無理強いせず、希望者だけで散歩に出かけることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーが設置してあるので日中は施錠していない。事務所も玄関に面しているため「目配り」ができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルと職員の連絡網は事務所に設置された通報機の隣に掲示してある。年2回消防署に来ていただき、職員と利用者で避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材が業者より配達されるので、栄養のバランスはとれている。食事形態も利用者に合わせたものが提供されるので残す人も殆どいない。水分量もチェックされている。食事・水分量とも主治医に毎日ファックスで知らせている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大半を過ごす食堂が吹き抜けになっているので、自然光が採り入れられやわらかい雰囲気を醸し出している。フロアの隅には観葉植物が置かれたり、さりげなく飾られた生花や季節の行事毎の飾り物がフロアの掲示板に貼られてある。また、月2回の講師を招いて練習している習字などもバランスよく掲示してある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や仏壇を持ってきている者や、レクリエーションの時に自分で作った折り紙・置物がバランスよく置かれ、その人らしい居室づくりに取り組まれている。		